

平成28年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	常識を破る鉄鋼材料の疲労特性：疲労き裂研究の新機軸
研究代表者	津崎 兼彰 (九州大学・大学院工学研究院・教授) ※平成28年6月末現在
研究期間	平成28年度～平成32年度
審査結果の所見	<p>本研究は、構造材料の設計強度を決定する疲労の長寿命化メカニズムを解明し、幅広い金属材料に適合できる“金属疲労”の新学問体系を構築する事を目的とする。応募者は世界に先駆けて鉄鋼材料の研究に長年取り組み、マイクロ／ナノ組織と力学特性の関連、疲労と破壊、水素脆性などの基礎研究で顕著な研究業績を上げ、それらの研究成果が高強度高靱性鋼、超疲労寿命鋼などの開発の指針となっている。</p> <p>最新の成果としては、応募者が開発した制振ダンパーが高層ビルに実装された事である。今までの顕著な業績を礎として、動的な観点から疲労の解明を提案された本研究は、基盤研究（S）として採択すべき課題であると判断した。</p>